

2018年8月号へのご意見

探究学習の進め方に自信が持てた

夏季休業中の研修会等で、次期学習指導要領に関する説明を聞く機会が複数回あった。そうした後に8月号の特集を読み、改めて探究学習について考えた。本校では、今年度から新しい形で探究学習に取り組む時間を確保している。「総合的な学習の時間」で探究学習を進めている最中だが、今回の記事と重なる部分が多くあり、今の内容が間違っていないという自信を得られた。そして、課題設定には時間をかけたいと改めて思った。

秋田県 匿名希望

問いを工夫する授業案を作成

8月号の特集を読み、探究的な活動を授業で促すためには、生徒に発する「問い」を工夫することが大切なのだとして改めて感じた。そこで、これまでと課題の出し方を変えて、生徒の深い学びにつながるような課題を中心に授業案を作成した。2学期に実践してみて、生徒の反応がどのように変わるのか楽しみだ。

東京都立羽村高校 久富悠生

授業内容の取捨選択の基準に共感

「実践 アクティブ・ラーニング」で紹介された福井県立敦賀高校・牧野剛士先生の授業は、英語4技能、アクティブ・ラーニングの視点、教科横断型と様々な要素が取り入れられつつ、生徒が生き生きと学ぶ様子が伝わり、素晴らしかった。授業内容の精選で悩みやすいなか、「家で自分1人でできることは、授業ではない」という分かりやすい判断基準で、能動的学習に重きを置いた考え方が参考になった。千葉県・私立成田高校 佐藤杏奈

生徒の頭の中に「つながり」をつくる

「実践 アクティブ・ラーニング」で紹介された京都市立堀川高校・吉谷智美先生の記事にあった、「どの教科の授業でも、同様に教科を横断した発問が頻繁にあるため、生徒は自分たちで学習内容の関連性を見つけ始める」に共感した。私も授業前の休み時間に教室に入り、前の授業の板書を見て、自身の教科と関連があることを生徒に語りかけるようにしている。生徒の頭の中にいろいろな「つながり」ができることが大切だと思った。

和歌山県立橋本高校 寺田順子

教育 ちょこっとトーク



テーマ 文理選択に悩む 生徒に一言

- 宇宙に行くための宇宙船を開発したいか、宇宙旅行を企画したいか。
東京都 滋賀県
- あえてしんどい道を選びなさい。苦労する分、成長も大きい。
兵庫県 福岡県
- 迷いに迷い、悩みに悩んだ結果なら「選んだ方が正解!」。
滋賀県
- どちらが得かではなくて、自分がやりたいことは何なのかを考えてほしい。
福岡県

お詫びと訂正

『VIEW21』高校版2018年度8月号「実践 アクティブ・ラーニング」で掲載をいたしました、京都府・京都市立堀川高等学校の吉谷智美先生のお取り組みの記事におきまして、下記の誤りがございました。

〈対象ページ〉

『VIEW21』高校版2018年度8月号 p.29・本文下段26～28行目

正 「さらに、アメリカの南北の産業構造を地理の気候条件に結びつけて説明した。」

誤 「さらに、アメリカの産業構造を地理の気候区分に結びつけて説明した。」

製作段階で吉谷先生から上記修正のご指摘をいただいていたにもかかわらず、編集部がそのご指摘を失念し、修正をせずに発刊してしまいました。吉谷先生、関係者の皆様、そして読者の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしましたこと、深くお詫び申し上げます。再発防止策を徹底して参りますので、今後とも、ご指導のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

『VIEW21』高校版編集部

編集後記

今号の「大学生による高校生のための大学の学び 最新ナビ」では、日本初のデータサイエンス学部を設置した滋賀大学取材しました。以前、人工知能の画像認識の仕組みをテレビで見て、学びの内容が気になっていましたが、文理融合のカリキュラムを見て納得しました。理系のデータ分析科目群・処理科目群のほか、データの社会的背景を学ぶ文系の価値創造科目群が大きな柱になっていたからです。新たな価値創造には、社会とのかかわりと文理両面の知識が必要で、同学部は文系の科目も多数開講していました。協働的に学ぶ授業もあり、ラーニングコモンズ(写真)も活用されているそうです。未来のデータサイエンティストが着実に育っているのだと感じました。(広瀬)



VIEW21 高校版 2018 12 月号

次号は 12月14日発行(予定)

『VIEW21』高校版は年6回の発行です